

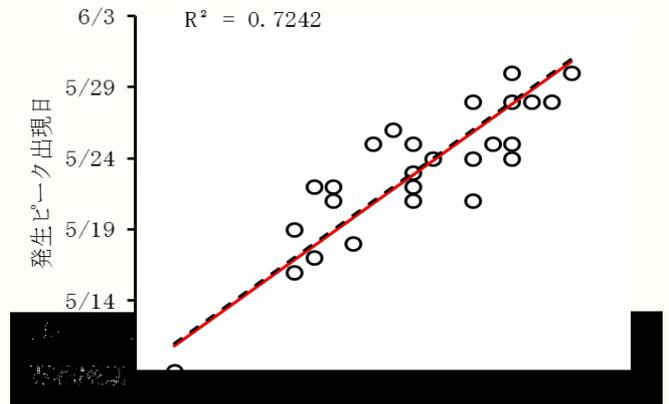
カキノヘタムシガの防除適期は、 「富有」の開花盛期から予測できる

カキノヘタムシガは、幼虫が果実を食害・落果させるカキの最重要害虫です。幼虫が果実内部にいる期間が長いため、殺虫剤による防除では防除適期の予測が極めて重要です。

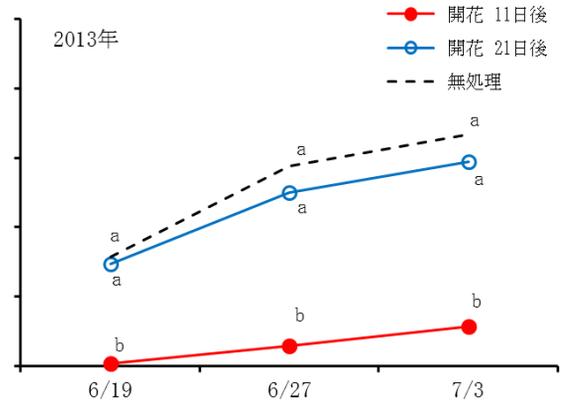
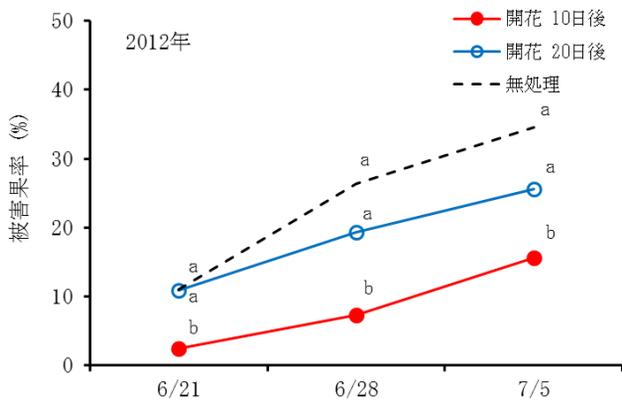
今回、「富有」の開花盛期（80%の花が開花した日）は、本虫越冬世代成虫の発生ピークとほぼ一致し、開花盛期の10日後が第1世代幼虫の防除適期であることを明らかとしました。



果実を食害するカキノヘタムシガ幼虫



富有の開花盛期と越冬世代成虫発生ピークの関係
赤の直線は近似線を、破線は開花盛期と発生ピークが一致する関係を示す。



カキノ開花盛期を基準とした薬剤散布による被害果率の推移

供試薬剤はアラニカルブ水和剤の1000倍とした。異なる英小文字は、各調査日における各処理間に有意な差があることを示す。

(研究成果)

- ・富有の開花盛期（80%以上の花が開花した日）の10日後が、第1世代幼虫の防除適期となります。
- ・この予測手法は、だれでも簡単にできます。
- ・浸透移行性の高い殺虫剤や長期残効が期待できる殺虫剤を用いると、被害をより少なくできます。
- ・予想される防除適期は、若齢幼虫が芽を食害している時期なので、新梢の芽にも十分に薬剤が付着するように散布します。